



神戸のケミカルシューズ産業は大正時代のゴム履物から始まり、綿布、ビニールと変化し、現在は合成皮革、人工皮革、天然皮革、雑材と色々な素材を使って作られている。その歴史の中で誕生した、KSMA 神戸靴資材総合協会についてお話を伺った。

**TLF**

TOKYO LEATHER FAIR

Interview,1

KSMA 神戸靴資材総合協会 久保 篤司

まずは、協会について教えてください。

昭和 32 年に発足したビニール同業組合を母体に、現在では各種素材から部品まで 11 社が加盟しています。「靴にまつわる総合インフラ組織」を目指し、神戸発の靴づくりをサポートしています。

TLF には 5 年前から出展されていますが、ブースを訪れる人はどんな人が多いでしょうか？

神戸で開催している展示会ですと靴メーカーさんが圧倒的に多いですが、TFL では問屋、百貨店、小売店、アパレル関係の方など幅広く来場していただけますので、TLF は良い出会い、質の高い情報交換の場になっています。

主にどんなことを求められますか？

加盟各社で取り扱いが違うので、ニーズは多種多様です。KSMA として大事にしていることは、物を作る環境、提供できる環境を維持していくことが大切だと思っています。

今後、KSMA として発信していきたいことを教えてください。

昔は、神戸発のオリジナル商品がとても多かったと思います。それだけ、時代に対して、常に挑戦していました。その後、時代と共にお客様の欲しいものを探す「答え探し」の仕事になっていったと感じます。今、再度“自分たちの靴を自分たちで”という気持ちに変化してきています。それは、販売チャネルが増えたことがとても大きいと思います。ネットで買い物をする今の時代に、自分たちも挑戦していかなければいけない。答えを探す仕事ではなく、オリジナル性を追求していきたいと思っています。オリジナル性を追求する、ということは、新しい物が生まれる時です。これは、ものづくりの原点ですね。

